

Concept

異なる時間軸を持つ

地球の表層

空間の在り様

生き物の営み

のあいだの交わりを創造する。

折り重なる 記憶

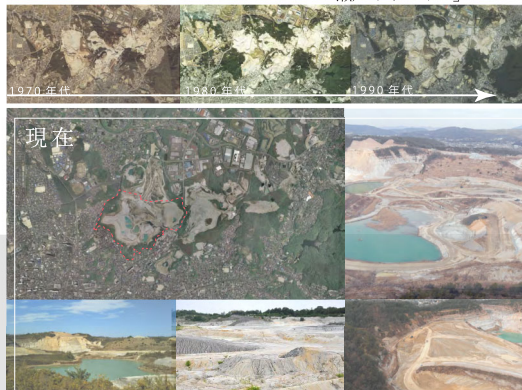
未来
Future

埋め戻しの過程によって
かつての地形の記憶を
様々な形で残しながら、
風景は変化していく。

現在
Present

Site

愛知県瀬戸市に広がる採土場 瀬戸市の焼き物文化を支える「瀬戸キャニオン」



Method

1 現状の採土場を縁取るようにプロムナードを設け、
変化していく地形との関係性のなかで空間や人・自然の多様な交わり方を創出する。

2 使い終わった採土場を還していく、埋め戻しの風景をデザインする。

現在
Present

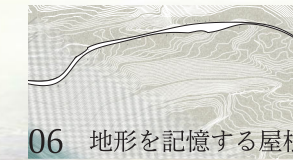
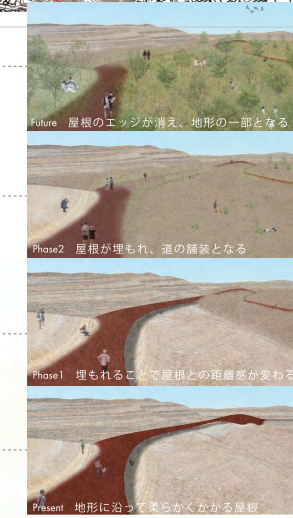
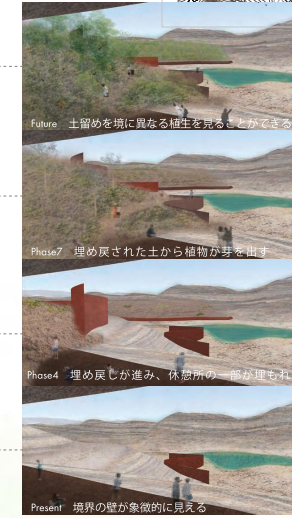
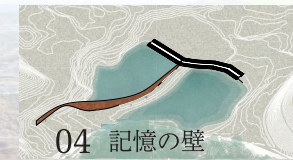
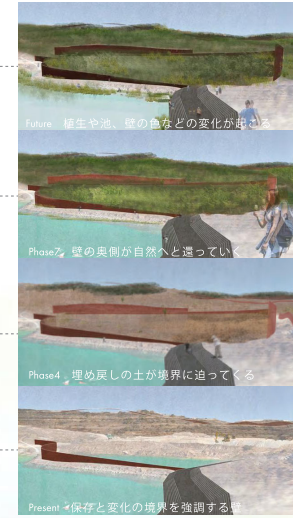
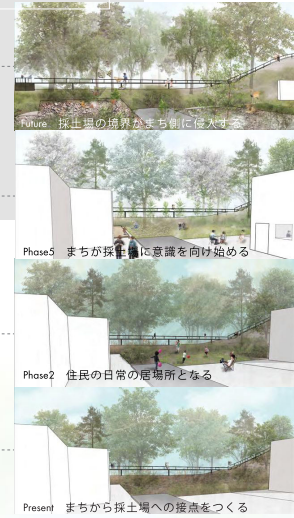
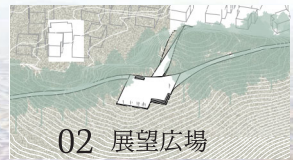
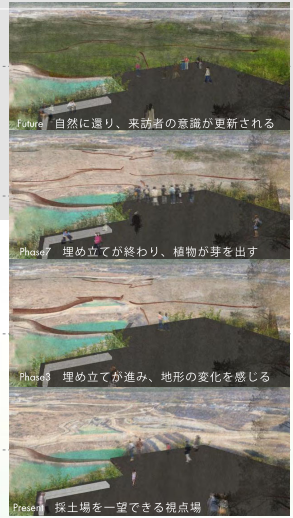
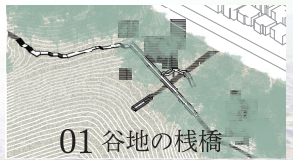
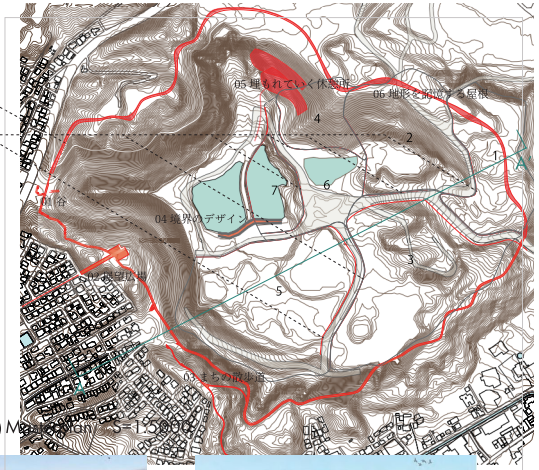
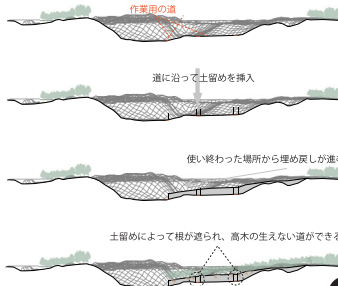
採土に必要な作業用トラックの動線が
地形に道となって現れている

作業用トラックの道に沿って土留めを挿入し、
埋め戻しを行う

採土が終わった場所から埋め戻しが進むにつれ、
道は見えなくなっていく

未来
Future

埋め戻しが進む、採土場の風景は変化していくが、
トラック道の形状をなぞった土留めが線として残る



谷地に親出するように棧橋を設けることで、
地層や急峻な地形を間近で体験することができる場所となる

まちの軸線を受けて採土場へ視線が通る展望広場を設ける

プロムナードが近隣住民の生活の一部となるよう、
まち側と接続する小径を設ける

残る地形と埋もれていく地形の境界
新旧の地形のコントラストを感じる基準線となる

埋め戻しが進むにつれ変化していく地形に連動して、
空間の在り様も変化していく

埋め戻しが進むと屋根であった場所が道を示す舗装となり、
屋根と人の関係が変化する

A

A